

第1学年 生活科（復興教育）学習指導案

1 単元名 「じぶんで できるよ」

2 本時のねらい

上達した自分の仕事のやり方や工夫などを学級のみならずと交流することとおして、家族の一員としての自分の役割に気づくことができる。

3 復興教育との関連

生活科の学習で、家族のために自分ができる仕事を行うことを通して、家族の中における自分の存在の大切さを家族の思い（感想・手紙など）から知り、自分の価値について考える。

4 本時の展開

	学習内容・活動	主な発問と予想される反応	指導上の留意点・評価
導入 5分	○ 本時の学習内容とめあてを確かめる。	○ お家でどんなお手伝いをしていますか。 C：茶碗の片付けをしている。 C：お風呂掃除をしている。  ◎ お手伝いの内容を発表して、みんなが、家族の一員としてどんな役割をしているか考えよう。	・お手伝いという身近な話題に触れながら、家族の一員としての役割について考えられるようにする。 ・お手伝い取り組みカードを見て、どんな仕事をしたか発表させる。
展開 30分	○ 「家族にここにこだいさくせん」への取り組み内容を発表する。  ○ 家族への感謝の気持ちを表す。	◎ 自分のしたお手伝いの内容と家族から言われたことを発表しよう。 C：お風呂掃除をしたら、家の人が「気持ちがいいお風呂だった。」と言ってくれた。 C：お皿を運んだら、お母さんが「ご飯の準備が早くできて助かったよ。」と言ってくれた。  ◎ 家族のだれに、どんな手紙を書きたいですか。 C：お母さんに、「毎日料理ありがとう。」と書きたい。 C：お父さんに、「スポーツ教室に連れて行ってくれてありがとう。」と書きたい。	・家族に喜んでもらった経験を出し合うことで、自分が果たせる役割について考えられるようにする。 【思考・表現】 自分のしている仕事について、友達に分かりやすく伝えている。 【関心・意欲・態度】 友達の発表を聞いて、自分と比較し、よいところを取り入れようとしている。 ・副読本の手紙、家の人からの手紙を読んで、支えてくれた家族を意識して表現させることで、感謝の気持ちを深められるようにする。
まとめ 10分	○ 家族の一員としての自分を見つめる。	◎ 家族からの手紙を読んで、自分が家族からどのように思われているか考えよう。  ◎ 家族のひとりとして、やりたいことはありますか。 C：玄関の靴をそろえる。 C：お皿を運んだり、お箸をならべたりする。	・家族との関わりを見つめさせることで、どんな状況においても家族の支えがあることや、自分も家族の支えになっていることに気付けるようにする。





お手伝い発表 1 箸の配膳



お手伝い発表 2 お風呂そうじ



お手伝い発表 3 米とぎ(1)



お手伝い発表 4 箸の米とぎ(2)



お手伝い発表 5 夕食の配膳(1)



お手伝い発表 6 夕食の配膳(2)



家族からの手紙 1



家族からの手紙 2